

“Greater WEST JAPAN(西日本広域周遊観光)” を目指して

去る3月31日、閣議決定された新しい観光立国推進基本計画において示された通り、我が国の最重要課題である「地方創生」のために期待される施策の一つが、インバウンド需要を地域に取り込み、これを通じて、地域を活性化させることである。わが国には旅行者を魅了する豊富で素晴らしい「自然、気候、文化、食」が揃っており、観光を通じて国内外との交流人口を拡大することは、我が国の成長戦略の柱、地域活性化の切り札といわれている。

コロナ禍により、インバウンド需要は約3年間消失した状況にあったが、コロナ前の2019年を振り返ると、旅行・観光消費は生産波及効果55.8兆円、雇用誘発効果456万人に上っていた。この数字が示す通り、観光は、地域の消費や雇用に大きな貢献ができる分野である。一方で、観光によるGDPへの寄与度は、わが国では約2%に止まっており、他の先進国であるフランスやイタリアなどの7%台と比べても伸びしろが大きく、観光は大きなポテンシャルを有していると言える。コロナ禍の先行きに明るさが増す中、2023年からは、これまで抑制されてきたインバウンド需要が急激に回復している。世界中の観光地域が旅行者を如何に誘客するかについて、熾烈な競争が始まっており、これに勝ち抜いていく必要がある。

今回、協定を締結する(一財)関西観光本部、(一社)山陰インバウンド機構、(一社)四国ツーリズム創造機構及び(一社)せとうち観光推進機構は、いずれも広域連携DMO(注)として、広域エリアを一体として観光促進策を行ってきた。今般、歴史的、文化的な繋がりが強いこの4者が、関西国際空港からのインバウンドの促進などを柱に連携することで、西日本の魅力ある豊富な観光資源を活用して、これまで以上に魅力ある観光ルートの形成、テーマツーリズムの創出が促進されることが期待される。そして、連携した強力な訴求力で、世界にデスティネーションとしての西日本をアピールしていく。

特に、2025年4月には大阪で、EXPO2025大阪・関西万博が開催され、2,820万人の来場者(うち海外から350万人)が見込まれている。同年5月には関西では「AWAJI 島博」、広島県・福山市では「第20回世界バラ会議福山大会」の開催が計画されており、さらに瀬戸内海においても「瀬戸内国際芸術祭」の開催調整が進められるなど、多くの訪日外国人の来訪が見込まれる。このような、好機を最大限活かし、4者が連携し“Greater WEST JAPAN(西日本広域周遊観光)”として、大きな構えで世界に西日本の魅力を発信し、世界各国から、より多くの旅行者の誘客を目指す。

(注)2017 年、観光庁は、地方公共団体と連携して観光地域づくりを担う法人(DMO: Destination Marketing/Management Organization)の登録制度を設け、地方ブロックレベルの区域を一体とした観光地域として観光地域づくりを行う組織として全国に10の「広域連携 DMO」が登録された。

【ご参考:各エリアの特徴】

関西は、1200 年以上の間、日本の都であった奈良・京都、商業の中心地・大阪、明治になって早くから開港し、多くの外国人が移り住んだ港町・神戸といった国際都市と、ユネスコ世界遺産の姫路城や熊野古道といった歴史と伝統、文化によって育まれた豊富な観光資源のもと、わが国の国宝と重要文化財の総数の、ほぼ半数が集積しているエリアである。

山陰は、鳥取砂丘、大山、隠岐諸島などといった雄大な自然とともに、世界遺産の石見銀山や縁結びの聖地「出雲大社」、日本一危険な国宝とも言われる「三仏寺投入堂」など、豊かな歴史文化資源を数多く有する地域でもある。

四国は、「古事記」の国産み神話では、淡路島に続き日本で二番目に創造された島で、胴体が1つで顔が4つあるとも言われている通り、瀬戸内海と太平洋に挟まれた島でありながら数多くの魅力を誇る。世界的な旅行ガイドブック『Lonely Planet(ロンリープラネット)』が発表した、おすすめの旅行先「Best in Travel 2022」の地域編において、四国は世界第6位に選ばれたが、その最大の理由は「四国遍路」であり、信仰の道を地域一体のおもてなしで支えるエリアでもある。

せとうちは大小700以上の島々・里山がおりなす原風景が癒しと安らぎを与えてくれる場所で、海上交通で栄えた歴史・文化・芸術・産業とともに営まれてきた人々の暮らしがあり、源流の恵みである海の幸や温暖な気候に育まれた柑橘類等の食文化と地域産品が魅力で、ありのままの日本の魅力がせとうちにある。

以上